

3. 郡山市まちづくり基本指針施策の満足度重要度

(1) まちづくりへの満足度結果一覧

まちづくり（取組み）における43項目（施策）の満足度平均得点をランキング化しました。

表3-1 43項目（施策）の満足度ランキング

平均得点70.0点

順位	前年度 順位	分野	項目	満足度	順位の変動	10位以上の 変動
1位	(1位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	医療	77.9	⇒	
2位	(3位)	II. 交流・観光の未来	音楽のまちづくり	76.5	➡	
3位	(4位)	V. 暮らしやすいまちの未来	自然環境	75.3	➡	
4位	(6位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	健康づくり	75.2	➡	
5位	(5位)	III. 学び育む子どもたちの未来	子育て	74.4	⇒	
6位	(13位)	V. 暮らしやすいまちの未来	防災	73.9	➡	
7位	(10位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	スポーツ・文化・芸術	73.3	➡	
8位	(8位)	III. 学び育む子どもたちの未来	青少年健全育成	72.9	⇒	
9位	(9位)	III. 学び育む子どもたちの未来	乳幼児教育・家庭教育	72.8	⇒	
10位	—	基盤的取組	復興、創生の更なる推進	72.5		
11位	(15位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	広聴広報	72.0	➡	
12位	(16位)	V. 暮らしやすいまちの未来	3R(資源の有効利用)	71.7	➡	
13位	(11位)	V. 暮らしやすいまちの未来	住環境	71.6	➡	
14位	(11位)	II. 交流・観光の未来	歴史・文化遺産	71.5	➡	
15位	(14位)	V. 暮らしやすいまちの未来	防犯・交通安全・消費者対策	70.9	➡	
16位	(17位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	男女共同参画	70.8	➡	
17位	(22位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	生涯学習	70.7	➡	
18位	(19位)	III. 学び育む子どもたちの未来	地域学習	70.6	➡	
18位	(17位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	地域コミュニティ	70.6	➡	
20位	(28位)	III. 学び育む子どもたちの未来	学校教育	70.5	➡	
21位	(26位)	基盤的取組	セーフコミュニティ	70.3	➡	
22位	(20位)	I. 産業・仕事の未来	特産品ブランド化	70.2	➡	
23位	(22位)	I. 産業・仕事の未来	産業創出・企業誘致	70.1	➡	
24位	(25位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	高齢者福祉	70.0	➡	
24位	(24位)	I. 産業・仕事の未来	地域産業	70.0	⇒	
26位	(31位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	地域福祉	69.9	➡	
27位	(21位)	II. 交流・観光の未来	都市間交流・国際交流・関係人口	69.7	➡	
28位	(30位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	障がい者福祉	69.3	➡	
29位	(27位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	市民協働	69.0	➡	
30位	(36位)	基盤的取組	連携中枢都市圏構想	68.1	➡	
30位	(39位)	基盤的取組	SDGs	68.1	➡	
32位	(38位)	基盤的取組	行政経営	67.9	➡	
33位	—	基盤的取組	DX推進	67.7		
34位	(28位)	I. 産業・仕事の未来	起業支援	67.6	➡	
35位	(34位)	V. 暮らしやすいまちの未来	ユニバーサルデザイン	67.5	➡	
36位	(34位)	V. 暮らしやすいまちの未来	エネルギー	67.3	➡	
37位	(37位)	I. 産業・仕事の未来	雇用・就労	67.1	⇒	
37位	(33位)	V. 暮らしやすいまちの未来	交通・道路	67.1	➡	
39位	(40位)	V. 暮らしやすいまちの未来	環境活動	65.8	➡	
40位	(41位)	V. 暮らしやすいまちの未来	計画的な都市づくり	64.2	➡	
41位	(42位)	II. 交流・観光の未来	観光	62.8	➡	
42位	(44位)	I. 産業・仕事の未来	農林業	62.0	➡	
43位	(43位)	II. 交流・観光の未来	シティプロモーション	61.8	⇒	

平均より高い

平均より低い

【よい】の回答者に100点、【どちらかといえばよい】に80点、【どちらかといえば不満】に60点、【不満】に40点、【わからない】に0点を与え、各項目の平均得点を算出した結果を掲載しました（表3-1参照）。

平均得点が高いほど、「満足」との評価が高い施策・事業です。

平均得点の算出式、算出例を以下に掲載しました。

※1：平均得点の算出式

$$\begin{aligned} & (\text{【よい】} \times 100 + \text{【どちらかといえばよい】} \times 80 \\ & + \text{【どちらかといえば不満】} \times 60 + \text{【不満】} \times 40 + \text{【わからない】} \times 0) \\ & \div \text{「わからない」と無回答者を除いた} n \text{ 数} \end{aligned}$$

※2：平均得点の算出例

例えば、「よい」26人、「どちらかといえばよい」137人、
「どちらかといえば不満」113人、「不満」43人、「わからない」393人ですと、

$$\frac{26 \text{ 人} \times 100 \text{ 点} + 137 \text{ 人} \times 80 \text{ 点} + 113 \text{ 人} \times 60 \text{ 点} + 43 \text{ 人} \times 40 \text{ 点} + 393 \text{ 人} \times 0 \text{ 点}}{319 \text{ 人}}$$

≒69.2

※平均得点=69.2点となります。

※2019年度から「普通」評価をなくした4段階評価とし、配点も変更しました。

— 満足度の上位3つは、「医療」「音楽のまちづくり」「自然環境」 —

【全体結果】

現在のまちづくりに対する満足度については、「医療」「音楽のまちづくり」「自然環境」が上位となっています。

「10年間の満足度上位3項目」において、「医療」は2017年度以外、毎年度上位3項目に含まれ、また、「音楽のまちづくり」は「音楽都市こおりやま」（2017年度以前の項目名）を含めると2013年度以降は毎年上位3項目に含まれており、継続して満足度の上位にある施策です。

「医療」については、病床数が全国平均を大きく上回るなど、市民のニーズを満たす医療を提供していること、また、「音楽のまちづくり」については、「音楽都市宣言」から14年経過し、市民の認知度が高いことなどが、満足度につながっていると考えられます。

また、上位の中で前年度調査に比べて順位を上げたのは、「音楽のまちづくり」「自然環境」「健康づくり」「防災」「スポーツ・文化・芸術」です。

これらの項目に関連する本市の主な取組みは、次のとおりです。

「自然環境」では、「郡山市第四次環境基本計画」を策定し、将来の環境都市像である「環境にやさしく自然豊かな住んでいてよかったなと思えるまち」の実現に向けて、原子力災害からの環境回復を土台とし、分野ごとに5つの「取組みの柱」を定め、環境施策を推進しています。

「健康づくり」では、健康づくりに取り組んでポイントを貯めると、福島県内1,700店舗以上の協力店で、グルメやショッピングなどお得な特典が使える「ふくしま健民カード」を発行する「こおりやま生きいき健康ポイント事業」を実施し、気軽に、無理なく、楽しく継続できる健康づくりを推進しています。

「防災」では、近年の気候変動等の影響により水災害が頻発していることを受け、郡山市ゲリラ豪雨対策9年プランにより市内5か所で雨水貯留施設の整備を進めており、ほかに被害の発生前から行政や住民などの各主体が迅速で的確な対応をとるためのタイムライン式行動計画の策定やウェブサイト・SNSからの防災情報の発信を行っています。

「スポーツ・文化・芸術」では、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となっていた郡山シティーマラソン大会の開催や施設整備のほか地域の歴史・文化遺産について、市民の皆さんと一緒に考え、理解をさらに深めていくために「こおりやま歴史・文化遺産フォーラム」を開催しています。

また、6分野の満足度を比較すると、最も満足度が高かった分野は、「学び育む子どもたちの未来」の72.2点、次いで「誰もが地域で輝く未来」の71.7点、「暮らしやすいまちの未来」の69.5点となっています。

表 3-2 6分野別の満足度ランキング

順位	分野	点数
1位	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来 (子育て・教育・地域学習分野)	72.2
2位	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来 (市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野)	71.7
3位	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来 (環境・防災・市民安全・生活インフラ分野)	69.5
4位	Ⅶ. 基盤的取組 (行政経営・セーフコミュニティ・連携中枢都市圏・SDGs)	69.1
5位	Ⅱ. 交流・観光の未来 (交流・文化・観光・シティプロモーション分野)	68.5
6位	Ⅰ. 産業・仕事の未来 (商業・工業・雇用・農林業分野)	67.8

参考までに、過去10年間の満足度上位3つは下表のとおりです。

表 3-3 10年間の満足度上位3項目

年度 \ 順位	1位	2位	3位
2022	医療	音楽のまちづくり	自然環境
2021	医療	除去土壌等の搬出	音楽のまちづくり
2020	医療	音楽のまちづくり	自然環境
2019	音楽のまちづくり	自然環境	医療
2018	音楽のまちづくり	医療	自然環境
2017	広聴広報	音楽都市こおりやま	除染
2016	広聴広報	音楽都市こおりやま	医療
2015	音楽都市こおりやま	生涯学習	医療
2014	音楽都市こおりやま	医療	生涯学習
2013	生涯学習	医療	音楽都市こおりやま

(2) これからの取り組み重要度結果一覧

まちづくり（取組み）における43項目（施策）の重要度の平均割合（回答率）をランキング化しました。

表3-4 43項目（施策）の重要度ランキング

平均割合12.8%

順位	前年度 順位	分野	項目	重要度	順位の変動	10位以上の 変動
1位	(2位)	I. 産業・仕事の未来	雇用・就労	37.1	➡	
2位	(1位)	III. 学び育む子どもたちの未来	子育て	33.2	➡	
3位	(3位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	高齢者福祉	32.4	➡	
4位	(6位)	III. 学び育む子どもたちの未来	学校教育	25.0	➡	
5位	(5位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	医療	24.4	➡	
6位	(4位)	V. 暮らしやすいまちの未来	防災	24.3	➡	
7位	(7位)	V. 暮らしやすいまちの未来	交通・道路	23.5	➡	
8位	(12位)	I. 産業・仕事の未来	地域産業	22.9	➡	
9位	(8位)	V. 暮らしやすいまちの未来	計画的な都市づくり	19.8	➡	
10位	(9位)	I. 産業・仕事の未来	産業創出・企業誘致	19.0	➡	
11位	(11位)	II. 交流・観光の未来	観光	18.6	➡	
12位	(13位)	V. 暮らしやすいまちの未来	防犯・交通安全・消費者対策	16.7	➡	
13位	(18位)	I. 産業・仕事の未来	特産品ブランド化	14.8	➡	
14位	(19位)	基盤的取組	SDGs	14.5	➡	
15位	(16位)	V. 暮らしやすいまちの未来	自然環境	13.6	➡	
16位	(22位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	健康づくり	12.7	➡	
17位	—	基盤的取組	復興、創生の更なる推進	12.5		
18位	(20位)	V. 暮らしやすいまちの未来	住環境	12.4	➡	
19位	(25位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	スポーツ・文化・芸術	11.5	➡	
20位	(16位)	II. 交流・観光の未来	音楽のまちづくり	10.9	➡	
21位	(21位)	III. 学び育む子どもたちの未来	乳幼児教育・家庭教育	10.7	➡	
21位	(23位)	III. 学び育む子どもたちの未来	青少年健全育成	10.7	➡	
23位	(28位)	I. 産業・仕事の未来	農林業	10.4	➡	
24位	(15位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	障がい者福祉	10.1	➡	
25位	(32位)	II. 交流・観光の未来	都市間交流・国際交流・関係人口	8.9	➡	
26位	(24位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	地域福祉	8.7	➡	
27位	(33位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	地域コミュニティ	8.6	➡	
28位	(27位)	基盤的取組	行政経営	8.0	➡	
29位	(31位)	V. 暮らしやすいまちの未来	環境活動	7.7	➡	
29位	(26位)	V. 暮らしやすいまちの未来	3R(資源の有効利用)	7.7	➡	
31位	(39位)	II. 交流・観光の未来	シティプロモーション	7.5	➡	
32位	(28位)	I. 産業・仕事の未来	起業支援	7.2	➡	
33位	(36位)	III. 学び育む子どもたちの未来	地域学習	6.5	➡	
34位	(36位)	V. 暮らしやすいまちの未来	エネルギー	6.2	➡	
35位	(30位)	II. 交流・観光の未来	歴史・文化遺産	6.0	➡	
36位	(35位)	基盤的取組	連携中枢都市圏構想	4.1	➡	
36位	(36位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	生涯学習	3.9	➡	
36位	(40位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	男女共同参画	3.5	➡	
39位	(41位)	基盤的取組	セーフコミュニティ	3.0	➡	
40位	(42位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	市民協働	2.9	➡	
41位	(43位)	V. 暮らしやすいまちの未来	ユニバーサルデザイン	2.7	➡	
42位	—	基盤的取組	DX推進	2.6		
43位	(44位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	広聴広報	2.1	➡	

平均より高い

平均より低い

平均割合（回答率）が高いほど、「重要度」が高い施策・事業です。

平均割合（回答率）の算出式、算出例を以下に掲載しました。

※1：平均割合（回答率）の算出式

$(\text{回答数}) \div n \text{ 数} \times 100\%$

※2：平均割合（回答率）の算出例

例えば、「子育て」220人ですと、

$220 \text{ 人} \div 663 \text{ 人} \times 100\% \doteq 33.2$

※平均割合（回答率）=33.2%となります。

— 重要度の上位3つは、「雇用・就労」「子育て」「高齢者福祉」 —

【全体結果】

現在のまちづくりに対する重要度については、「雇用・就労」「子育て」「高齢者福祉」が上位となっています。

「雇用・就労」については、2019年から国が継続的に推進している「働き方改革」による社会構造への影響や近年の大雨等の自然災害や新型コロナウイルス感染症が及ぼす地域産業への影響から、引き続き関心度及び重要度の高さが持続しているものと考えられます。

また、「10年間の重要度上位3項目」において、「高齢者福祉」は2013年度から、「子育て」は2014年度から、ほぼ毎年度上位3項目に含まれており、継続して重要度の高い施策です。

また、上位の中で前年度調査に比べて順位を上げたのは、「雇用・就労」「学校教育」「地域産業」です。

「学校教育」では、新型コロナウイルス感染症の影響や近年ヤングケアラー等の問題も頻繁に取り上げられるようになっており、関心が高まりつつあるものと考えられます。

「地域産業」については、新型コロナウイルス感染症の影響や後継者問題等から、今まで以上に地域産業の活性化の重要性が高まっていると考えられます。

また、6分野の重要度を比較すると、最も重要度が高かった分野は、満足度においては比較的低い分野の「産業・仕事の未来」の18.6%となっており、重点的に取り組むべき分野といえます。次いで、「学び育む子どもたちの未来」の17.2%と続いています。

表 3-5 7分野別の重要度ランキング

順位	分野	回答率(%)
1位	I. 産業・仕事の未来 (商業・工業・雇用・農林業分野)	18.6
2位	III. 学び育む子どもたちの未来 (子育て・教育・地域学習分野)	17.2
3位	V. 暮らしやすいまちの未来 (環境・防災・市民安全・生活インフラ分野)	13.5
4位	IV. 誰もが地域で輝く未来 (市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野)	11.0
5位	II. 交流・観光の未来 (交流・文化・観光・シティプロモーション分野)	10.4
6位	基盤的取組 (行政経営・セーフコミュニティ・連携中枢都市圏・SDGs)	7.4

参考までに、過去10年間の重要度上位3つは下表のとおりです。

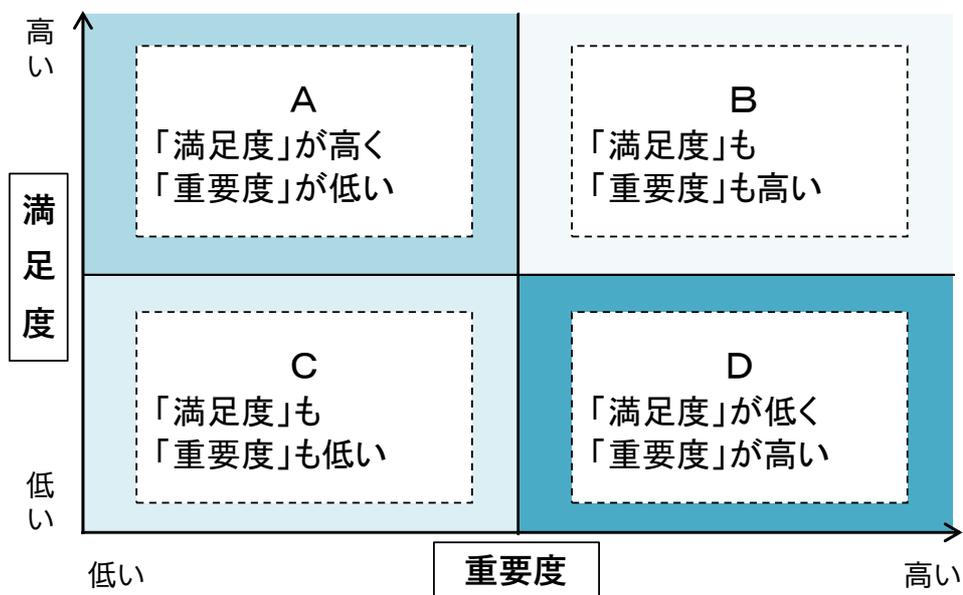
表 3-6 10年間の重要度上位3項目

順位 年度	1位	2位	3位
2022	雇用・就労	子育て	高齢者福祉
2021	子育て	雇用・就労	高齢者福祉
2020	雇用・就労	防災	学校教育
2019	雇用・就労	子育て	高齢者福祉
2018	雇用・就労	子育て	高齢者福祉
2017	高齢者福祉	子育て	学校教育
2016	高齢者福祉	学校教育	子育て
2015	高齢者・障がい者福祉	学校教育	子育て
2014	高齢者・障がい者福祉	子育て	学校教育
2013	除染	高齢者・障がい者福祉	学校教育

(3) 施策の優先度《満足度と重要度の関係》

まちづくり（取組み）における 43 項目（施策）の優先度を整理するため、「満足度」を縦軸、「重要度」を横軸にとり、各項目の「満足度」「重要度」の結果を散布図として示しました。満足度平均得点の算出方法につきましては前出 29 頁を、重要度平均割合の算出方法につきましては前出 33 頁を参照ください。

なお、「満足度」「重要度」の関係を表す領域線は、それぞれの平均値となります。



A : 維持領域

重要度は低いが満足度が高い取組みは、現状を維持していく項目（施策）です。

B : 重要維持領域

重要度が高く満足度も高いため、引き続き重点的に維持していく項目（施策）です。

C : 要検討領域

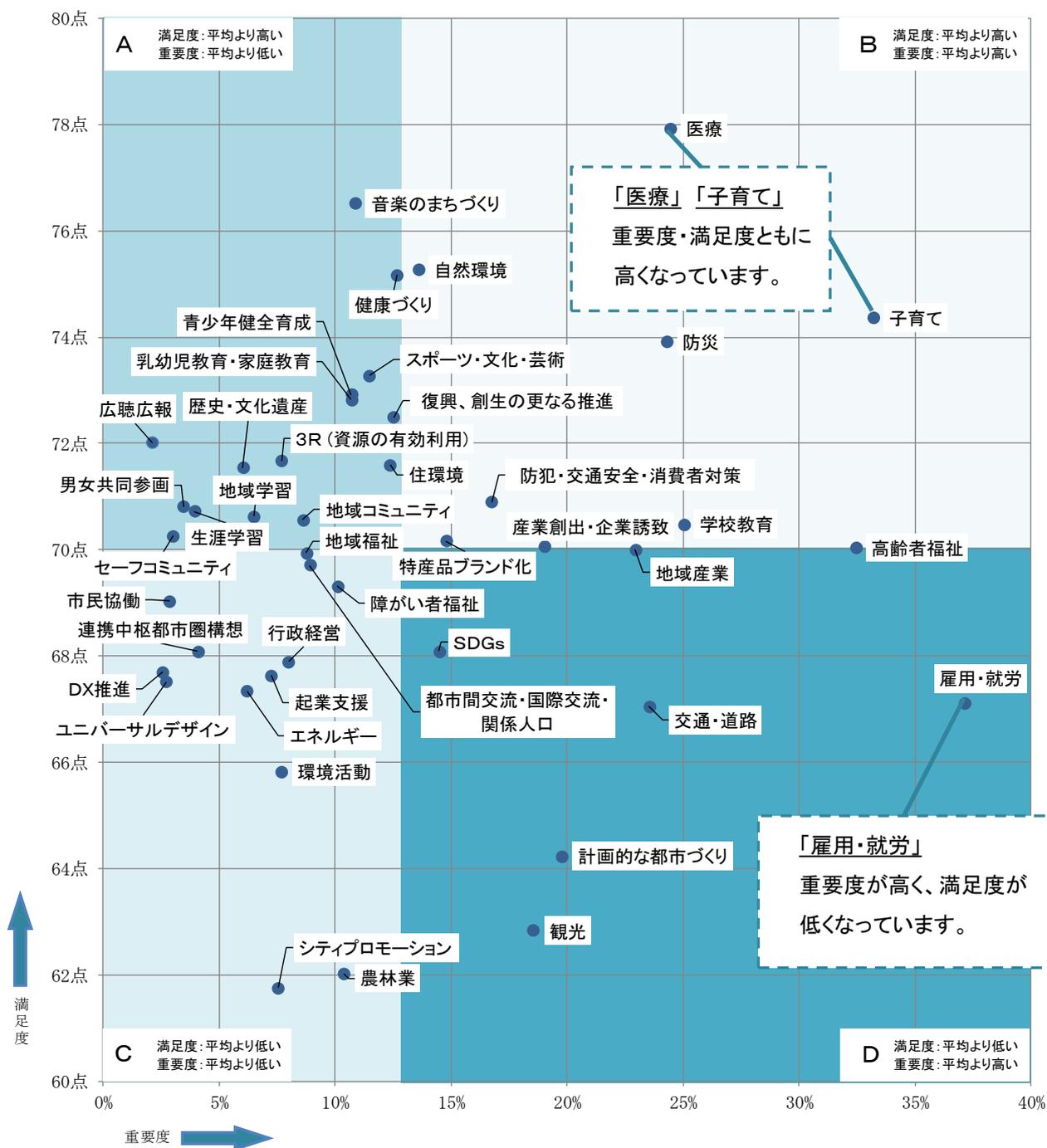
重要度も満足度も低い取組みは、市民ニーズを再認識し、必要があれば大きく改善する必要がある項目（施策）です。

D : 重要取組領域

重要度が高いが満足度が低いため、重点的に取組みを進める必要がある項目（施策）です。

※上記のそれぞれの領域に該当した項目（施策）の満足度や重要度の高低については、全体の平均値と比較した相対的判断となっています。

図3-1 施策の優先度（満足度と重要度の関係散布図）

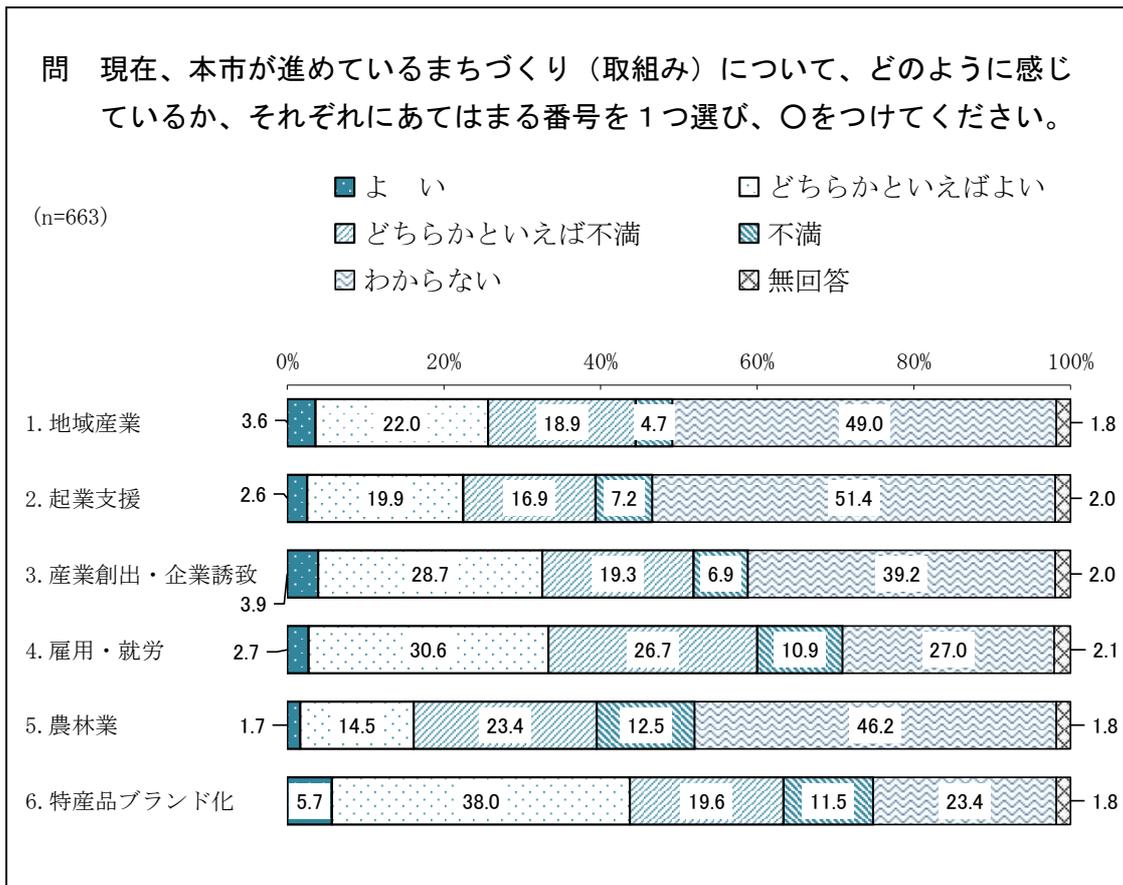


—— 「雇用・就労」に関して優先的な施策の改善が求められている ——

現在の満足度が低く、今後の重要性が高い領域「D」にある施策は市民ニーズが高いと考えられます。この領域は市民生活に密接な関係のある施策が多く、とりわけ「雇用・就労」は市民ニーズの高いポイントとなっています。

(4) 分野別属性別満足度結果

①産業・仕事の未来（商業・工業・雇用・農林業分野）への満足度



—— 産業・仕事の未来において「満足」と思う人が最も多いのは

『特産品ブランド化』 ——

【全体結果】

『産業・仕事の未来』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『6. 特産品ブランド化』（43.7%）でした。以下、『4. 雇用・就労』（33.3%）、『3. 産業創出・企業誘致』（32.6%）と続き、上位を構成しています。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『4. 雇用・就労』（37.6%）でした。以下、『5. 農林業』（35.9%）、『6. 特産品ブランド化』（31.1%）がそれぞれ3割台となっており、『6. 特産品ブランド化』、『4. 雇用・就労』については評価が分かれる結果となっています。

また、「わからない」の割合が『2. 起業支援』（51.4%）と『1. 地域産業』（49.0%）で約半数を占めています。事業、施策の推進など、今後もさらに周知していく必要があります。

各項目の平均得点を算出した結果を次頁に掲載しました（図 3-2 参照）。

平均得点をみると、『6. 特産品ブランド化』が70.2点で最も高く、一方で、最も低かったのは『5. 農林業』(62.0点)でした。

なお、性別、年代別平均得点の上位3つを以下に掲載しました。(表3-7参照)

図3-2 産業・仕事の未来への満足度<平均得点>(全体)

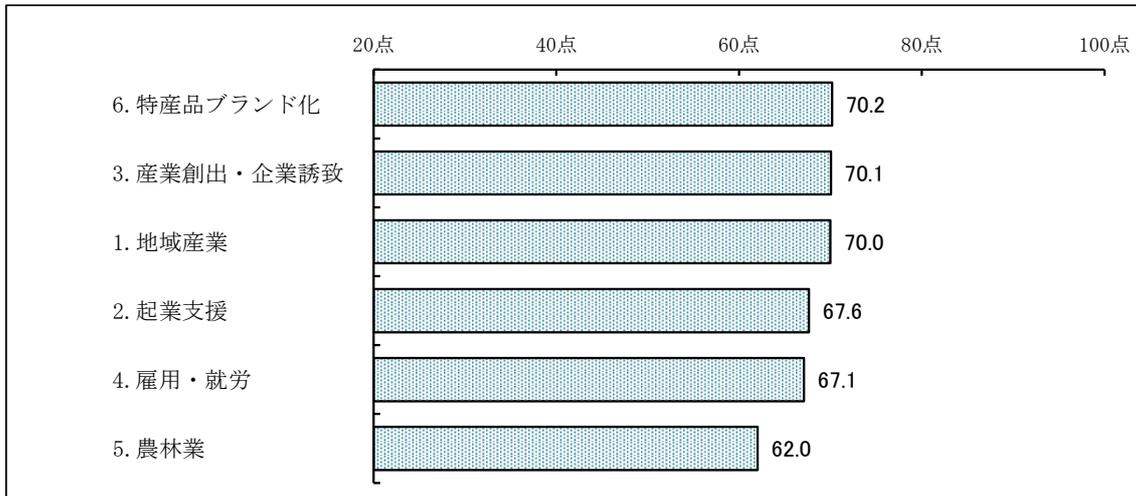
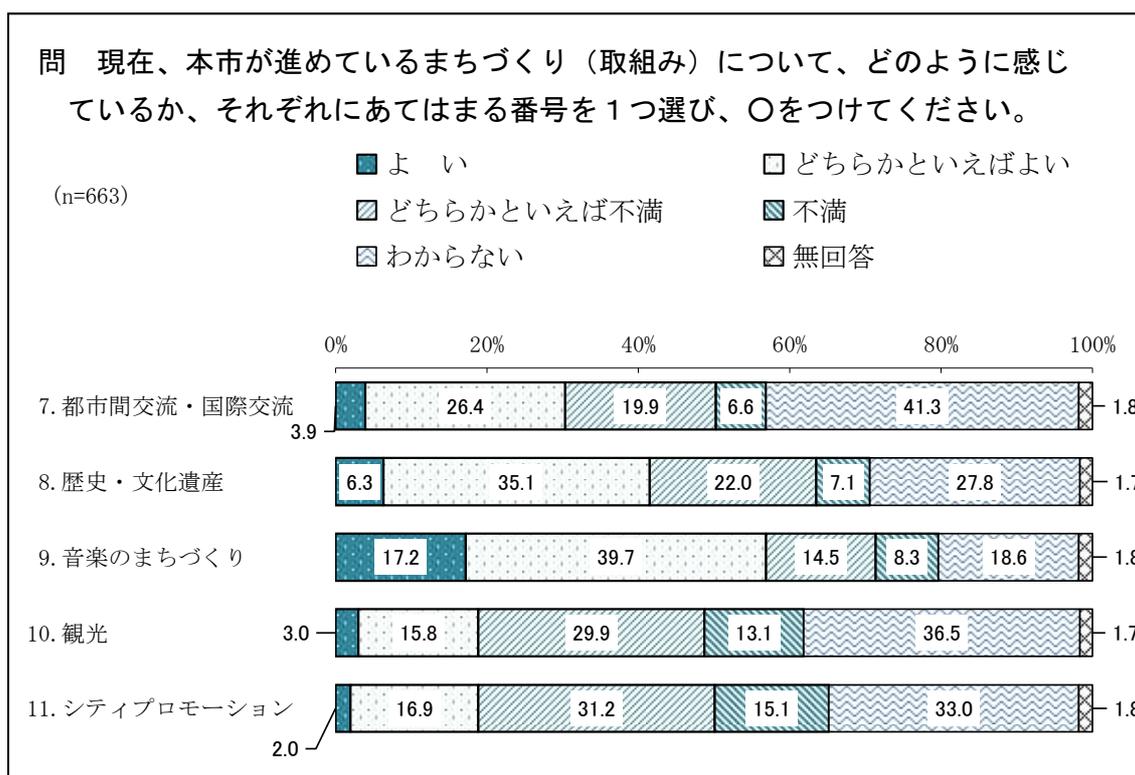


表3-7 産業・仕事の未来への満足度<性別、年代別平均得点の上位3つ>

	男性	女性
1位	産業創出・企業誘致 (70.7点)	特産品ブランド化 (72.2点)
2位	地域産業 (70.5点)	地域産業 (68.9点)
3位	起業支援 (69.0点)	産業創出・企業誘致 (68.8点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	地域産業 (85.0点)	特産品ブランド化 (79.4点)	特産品ブランド化 (73.1点)	特産品ブランド化 (70.8点)	特産品ブランド化 (69.7点)	地域産業 (69.9点)	地域産業 (74.0点)
2位	産業創出・企業誘致 (84.0点)	産業創出・企業誘致 (78.3点)	雇用・就労 (67.5点)	産業創出・企業誘致 (70.0点)	産業創出・企業誘致 (69.2点)	起業支援 (67.4点)	産業創出・企業誘致 (71.7点)
3位	農林業 (82.9点)	地域産業 (77.0点)	産業創出・企業誘致 (67.3点)	地域産業 (67.5点)	地域産業 (67.0点)	産業創出・企業誘致 (66.8点)	起業支援 (71.1点)

②交流・観光の未来（交流・文化・観光・シティプロモーション分野）への満足度



—— 交流・観光の未来において「満足」と思う人が最も多いのは『音楽のまちづくり』 ——

【全体結果】

『交流・観光の未来』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『9. 音楽のまちづくり』（56.9%）でした。以下、『8. 歴史・文化遺産』（41.5%）が続き、上位を構成しています。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『11. シティプロモーション』（46.3%）となっています。

各項目の平均得点を算出した結果を次頁に掲載しました（図 3-3 参照）。

平均得点をみると、『9. 音楽のまちづくり』が76.5点で最も高くなっています。一方で、最も低かったのは『11. シティプロモーション』（61.8点）でした。なお、性別、年代別平均得点の上位3つを次頁に掲載しました（表 3-8 参照）。

図3-3 交流・観光の未来への満足度＜平均得点＞（全体）

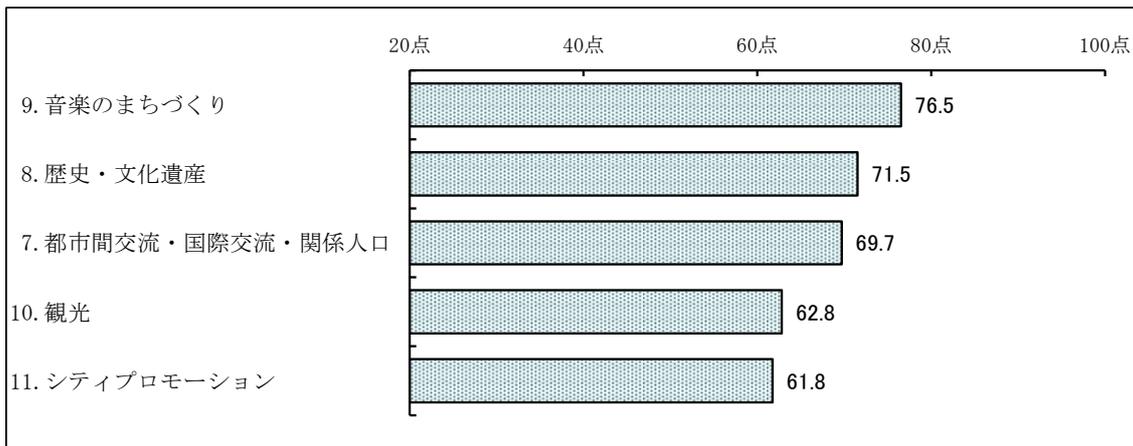
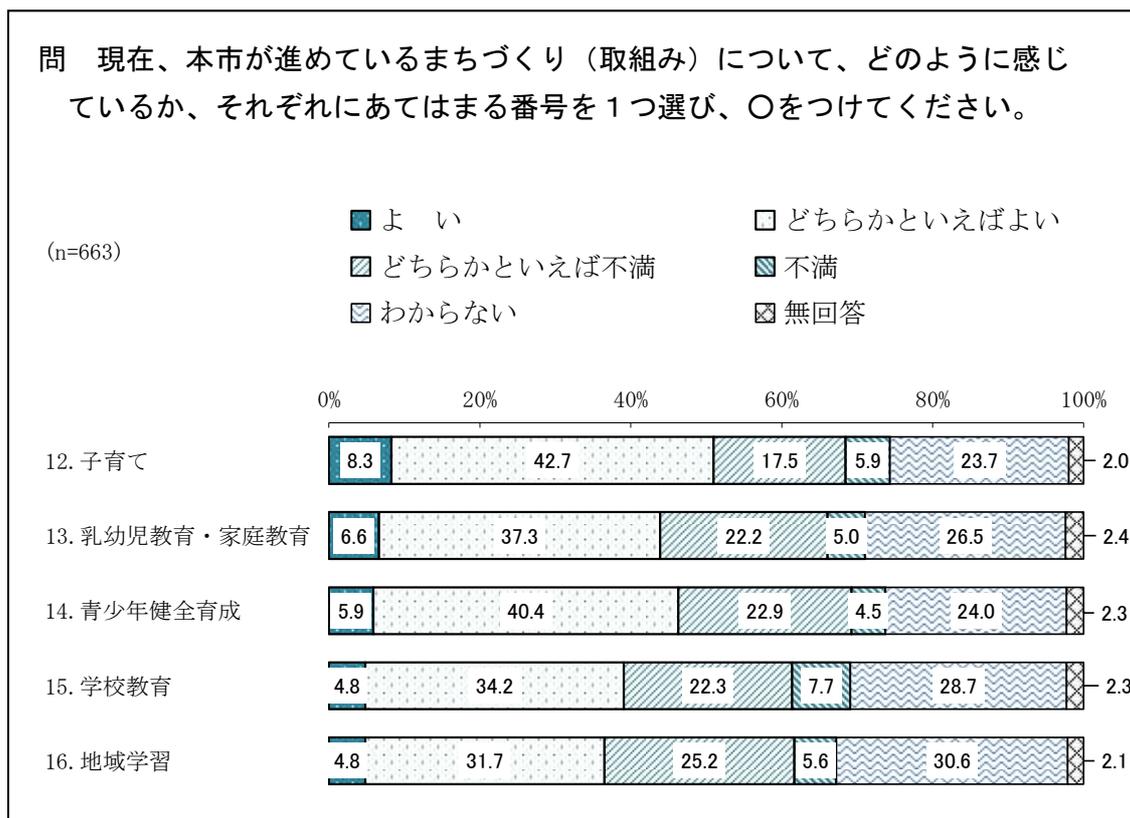


表3-8 交流・観光の未来への満足度＜性別、年代別平均得点の上位3つ＞

	男性	女性
1位	音楽のまちづくり (77.3点)	音楽のまちづくり (76.1点)
2位	歴史・文化遺産 (71.7点)	歴史・文化遺産 (71.2点)
3位	都市間交流・国際交流・関係人口 (69.7点)	都市間交流・国際交流・関係人口 (69.7点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	歴史・文化遺産 (80.0点)	歴史・文化遺産 (78.5点)	音楽のまちづくり (74.5点)	音楽のまちづくり (76.2点)	音楽のまちづくり (73.8点)	音楽のまちづくり (77.7点)	音楽のまちづくり (78.7点)
2位	都市間交流・国際交流・関係人口 (77.5点)	音楽のまちづくり (77.9点)	都市間交流・国際交流・関係人口 (69.1点)	歴史・文化遺産 (69.4点)	歴史・文化遺産 (69.5点)	都市間交流・国際交流・関係人口 (69.8点)	歴史・文化遺産 (76.0点)
3位	音楽のまちづくり (75.6点)	都市間交流・国際交流・関係人口 (71.5点)	歴史・文化遺産 (67.7点)	都市間交流・国際交流・関係人口 (67.1点)	都市間交流・国際交流・関係人口 (68.6点)	歴史・文化遺産 (69.4点)	都市間交流・国際交流・関係人口 (71.6点)

③ 学び育む子どもたちの未来（子育て・教育・地域学習分野）への満足度



—— 学び育む子どもたちの未来において

「満足」と思う人が最も多いのは『子育て』 ——

【全体結果】

『学び育む子どもたちの未来』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『12. 子育て』（51.0%）でした。以下、『14. 青少年健全育成』（46.3%）が続き、上位を構成しています。特に『12. 子育て』に関しては、安心して生み育てる環境において、子育てしやすい環境づくりに努めるなど、今後特に重点的な維持が期待されています。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『16. 地域学習』（30.8%）となっています。

各項目の平均得点を算出した結果を次頁に掲載しました（図 3-4 参照）。

平均得点をみると、『12. 子育て』が 74.4 点で最も高くなっています。

一方で、最も低かったのは『15. 学校教育』（70.5 点）でした。

なお、性別、年代別平均得点の上位 3 つを次頁に掲載しました（表 3-9 参照）。

図3-4 学び育む子どもたちの未来への満足度〈平均得点〉（全体）

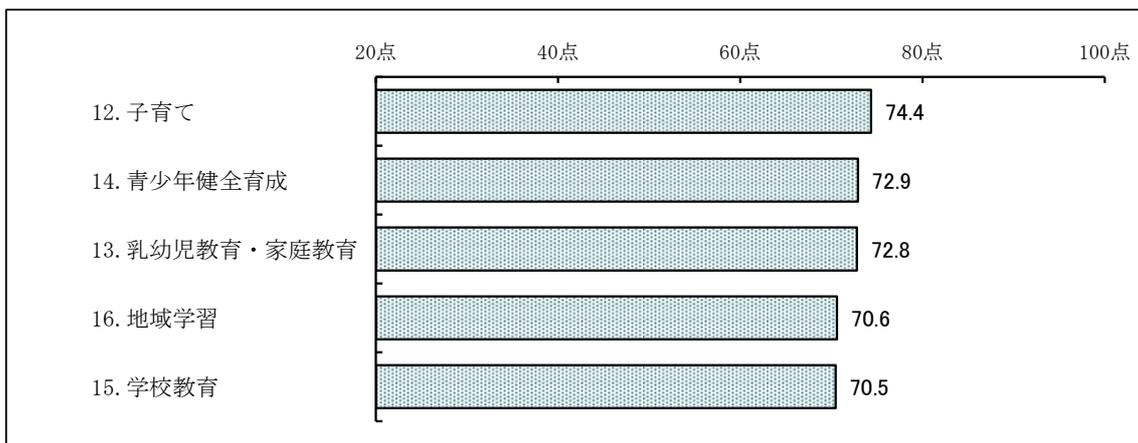


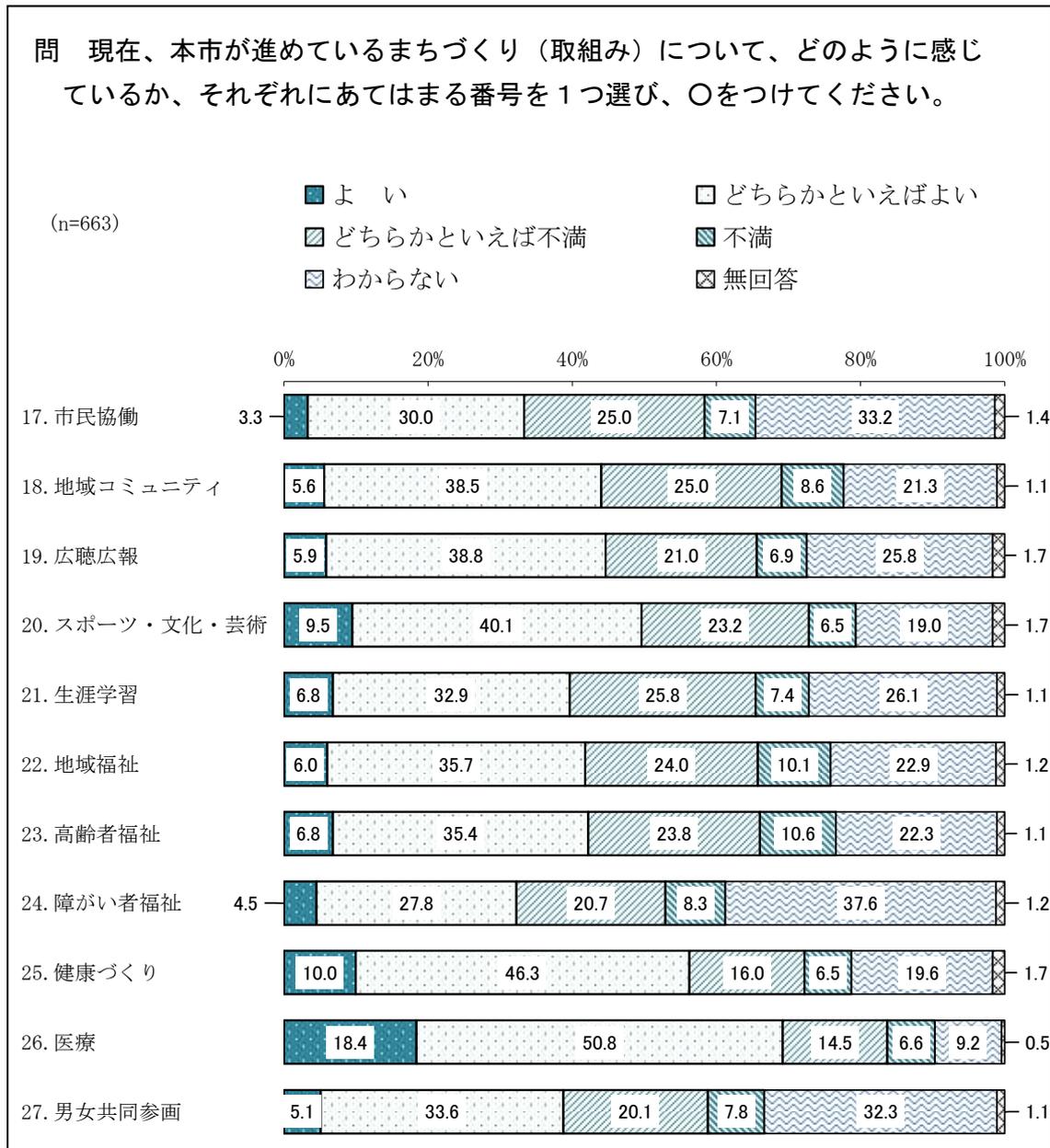
表3-9 学び育む子どもたちの未来への満足度〈性別、年代別平均得点の上位3つ〉

	男性	女性
1位	青少年健全育成 (74.4点)	子育て (74.1点)
2位	子育て (74.4点)	乳幼児教育・家庭教育 (72.7点)
3位	乳幼児教育・家庭教育 (72.7点)	青少年健全育成 (71.4点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	青少年健全育成 (82.0点)	地域学習 (81.6点)	子育て (71.2点)	子育て (73.6点)	乳幼児教育・家庭教育 (72.4点)	子育て (72.0点)	子育て (78.5点)
2位	学校教育 (82.0点)	子育て (81.5点)	乳幼児教育・家庭教育 (70.4点)	乳幼児教育・家庭教育 (72.2点)	子育て (72.2点)	青少年健全育成 (70.8点)	青少年健全育成 (77.6点)
3位	子育て (80.0点)	青少年健全育成 (81.3点)	学校教育 (68.8点)	青少年健全育成 (70.8点)	青少年健全育成 (71.3点)	乳幼児教育・家庭教育 (69.6点)	乳幼児教育・家庭教育 (76.5点)

④誰もが地域で輝く未来

(市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野) への満足度



—— 誰もが地域で輝く未来において

「満足」と思う人が最も多いのは『医療』 ——

【全体結果】

『誰もが地域で輝く未来』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『26. 医療』（69.2%）でした。以下、『25. 健康づくり』（56.3%）が5割台で続き、上位を構成しています。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『23. 高齢者福祉』（34.4%）となっています。

各項目の平均得点を算出した結果を以下に掲載しました（図 3-5 参照）。

平均得点をみると、『26. 医療』が77.9点で最も高くなっています。

一方で、最も低かったのは『17. 市民協働』（69.0点）でした。

なお、性別、年代別平均得点の上位3つを次頁に掲載しました（表 3-10 参照）。

図 3-5 誰もが地域で輝く未来への満足度＜平均得点＞（全体）

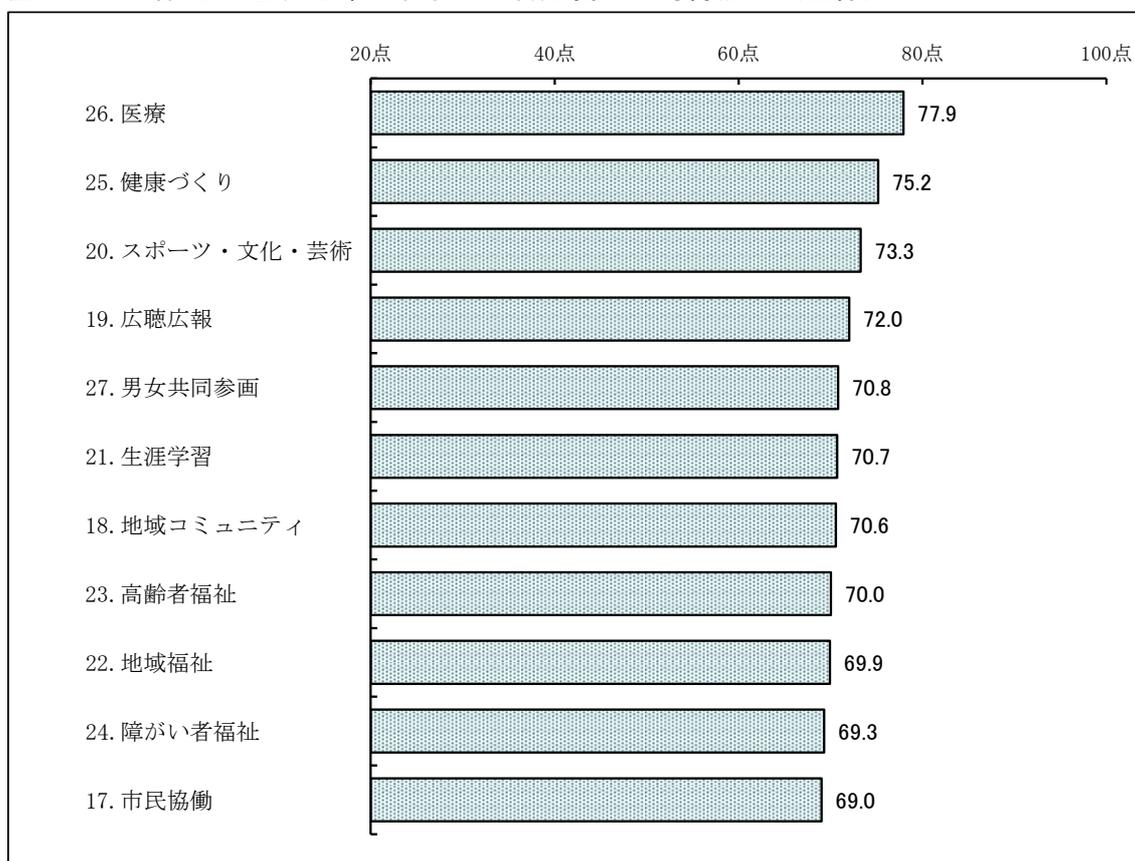


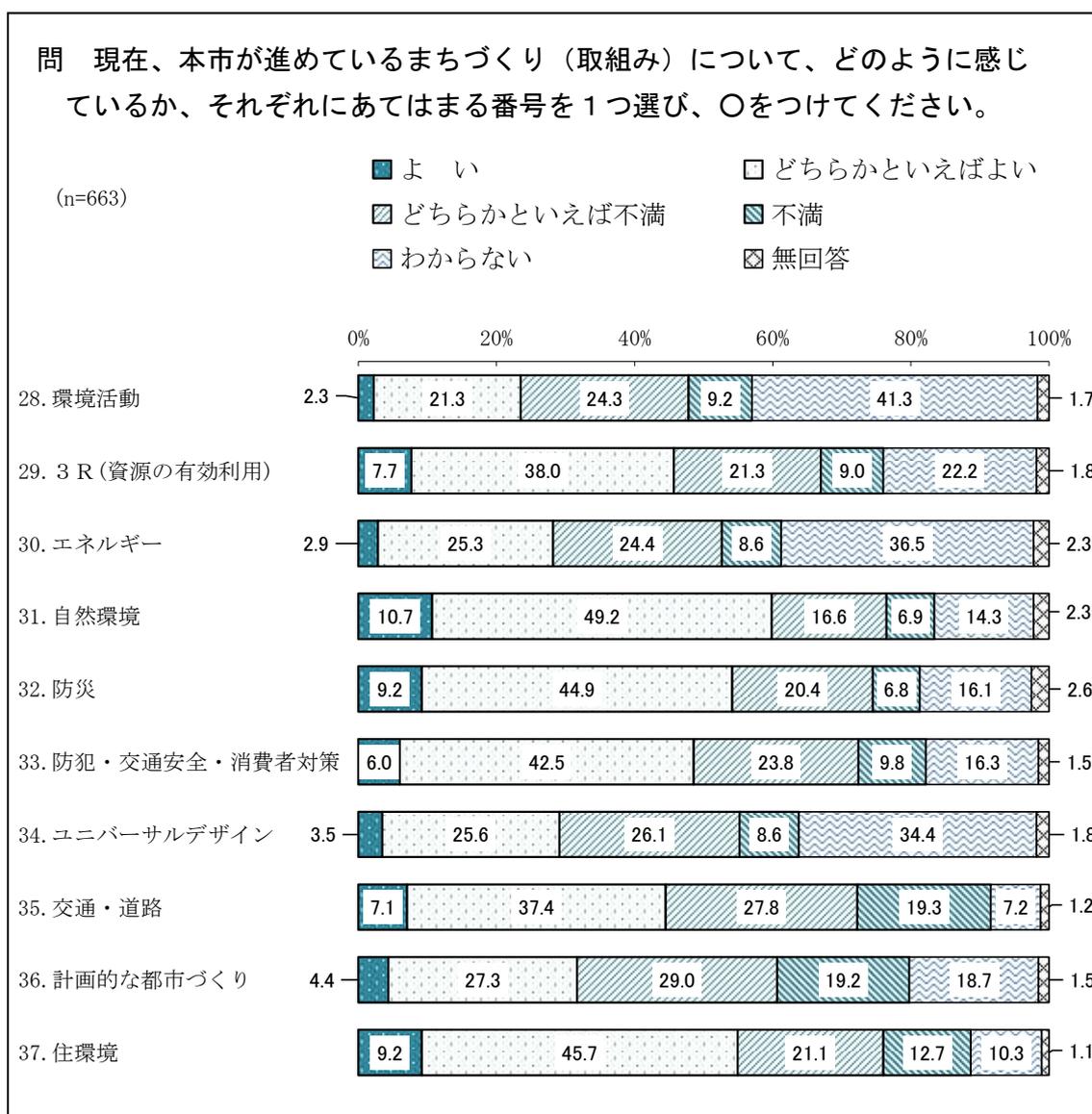
表3-10 誰もが地域で輝く未来への満足度＜性別、年代別平均得点の上位3つ＞

	男性	女性
1位	医療 (79.4点)	医療 (76.5点)
2位	健康づくり (75.8点)	健康づくり (74.6点)
3位	スポーツ・ 文化・芸術 (73.6点)	スポーツ・ 文化・芸術 (72.9点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	医療 (90.0点)	医療 (82.0点)	医療 (76.9点)	医療 (76.3点)	医療 (74.8点)	医療 (74.9点)	医療 (82.6点)
2位	高齢者福祉 (85.7点)	健康づくり (80.0点)	スポーツ・ 文化・芸術 (74.2点)	健康づくり (72.7点)	健康づくり (72.6点)	健康づくり (73.4点)	健康づくり (79.2点)
3位	障がい者福祉 (83.3点)	高齢者福祉 (78.8点) 男女共同参画 (78.8点)	健康づくり (73.7点)	スポーツ・ 文化・芸術 (70.3点)	広聴広報 (71.1点)	広聴広報 (71.2点)	スポーツ・ 文化・芸術 (77.6点)

⑤暮らしやすいまちの未来

(環境・防災・市民安全・生活インフラ分野) への満足度



—— 暮らしやすいまちの未来において

「満足」と思う人が最も多いのは『自然環境』 ——

【全体結果】

『暮らしやすいまちの未来』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が高いのは『31. 自然環境』（59.9%）、『37. 住環境』（54.9%）、『32. 防災』（54.1%）がそれぞれ5割台で、上位を構成しています。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『36. 計画的な都市づくり』（48.1%）となっています。

各項目の平均得点を算出した結果を以下に掲載しました（図 3-6 参照）。

平均得点をみると、『31. 自然環境』が 75.3 点で最も高くなっています。

一方で、最も低かったのは『36. 計画的な都市づくり』（64.2 点）でした。

『31. 自然環境』に関しては、満足度は前年度と変わらず上位を維持していますが、重要度の順位が前年度調査に比べて上がっています。更なる推進が求められていると考えられます。

なお、性別、年代別平均得点の上位 3 つを次頁に掲載しました（表 3-11 参照）。

図 3-6 暮らしやすいまちの未来への満足度＜平均得点＞（全体）

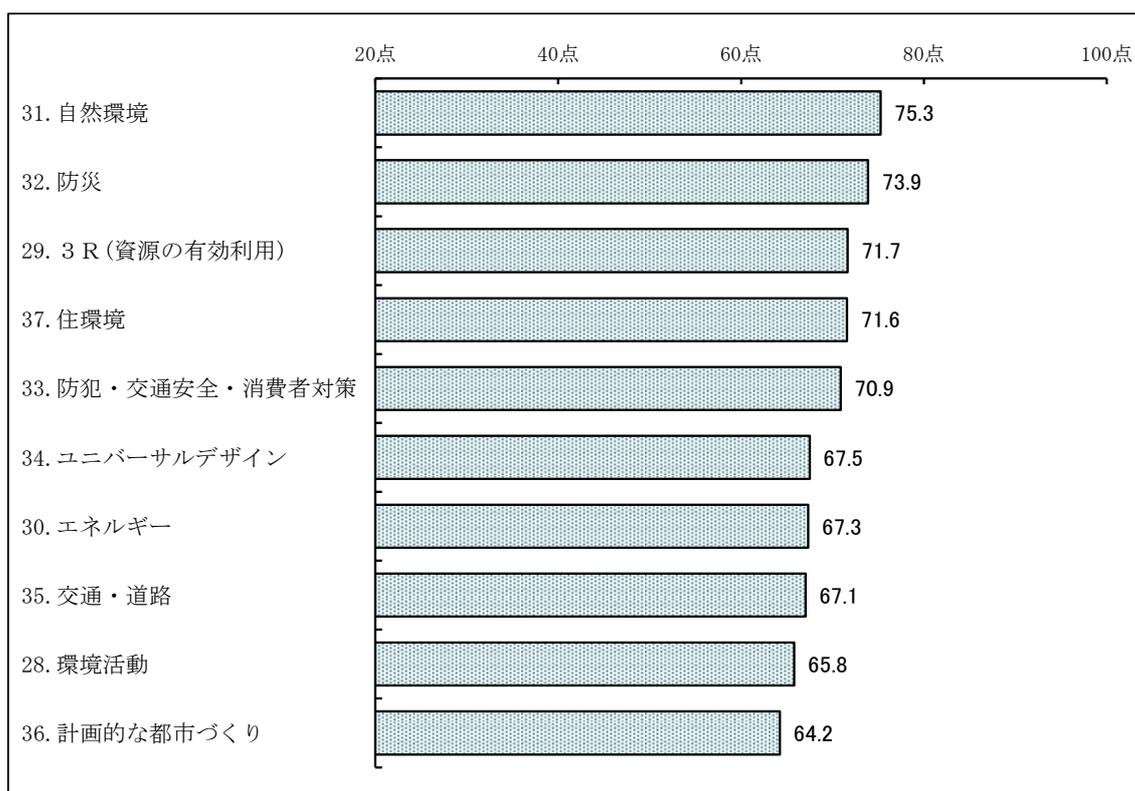


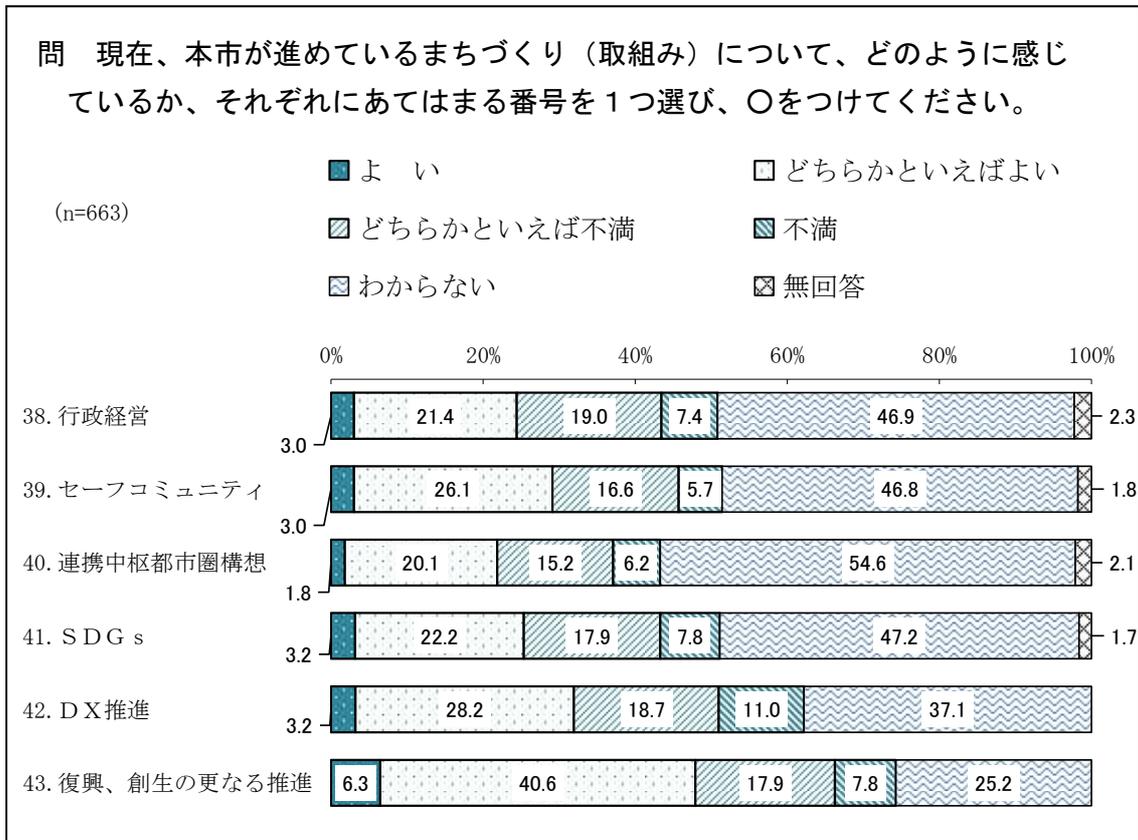
表3-11 暮らしやすいまちの未来への満足度＜性別、年代別平均得点の上位3つ＞

	男性	女性
1位	自然環境 (75.5点)	自然環境 (74.9点)
2位	防災 (73.5点)	防災 (74.1点)
3位	住環境 (72.3点)	3R(資源の有効利用) (71.2点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	自然環境 (83.6点)	自然環境 (77.8点)	自然環境 (76.1点)	自然環境 (73.1点)	自然環境 (74.9点)	自然環境 (72.6点)	防災 (78.1点)
2位	エネルギー (83.3点)	防災 (77.8点)	防災 (73.1点)	3R(資源の有効利用) (71.9点)	防災 (71.5点)	防災 (72.0点)	自然環境 (77.9点)
3位	防災 (82.5点)	住環境 (77.6点)	防犯・交通安全・消費者対策 (69.4点)	防災 (71.7点)	住環境 (69.1点)	防犯・交通安全・消費者対策 (70.2点)	3R(資源の有効利用) (76.9点)

⑥基盤的取組

(行政経営、セーフコミュニティ、連携中枢都市圏、SDGs、DX推進、復興・創生の更なる推進) への満足度



—— 基盤的取組において「満足」と思う人が最も多いのは

『復興、創生の更なる推進』 ——

【全体結果】

『基盤的取組』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「どちらかといえばよい」の合計）」の割合が最も高いのは『43. 復興、創生の更なる推進』（46.9%）です。

一方で、「不満（「不満」と「どちらかといえば不満」の合計）」の割合が最も高いのは『42. DX推進』（29.7%）となっています。

また、『43. 復興、創生の更なる推進』以外すべての項目において「わからない」の割合が最も高くなっています。事業、施策の推進など、今後もさらに周知していく必要があります。

各項目の平均得点を算出した結果を次頁に掲載しました（図 3-8 参照）。

平均得点をみると、『43. 復興、創生の更なる推進』が 72.5 点で最も高くなっています。

一方で、最も低かったのは『42. DX推進』(67.7 点) でした。

なお、性別、年代別平均得点の上位 3 つを以下に掲載しました (表 3-13 参照)。

図 3-8 基盤的取組への満足度<平均得点> (全体)

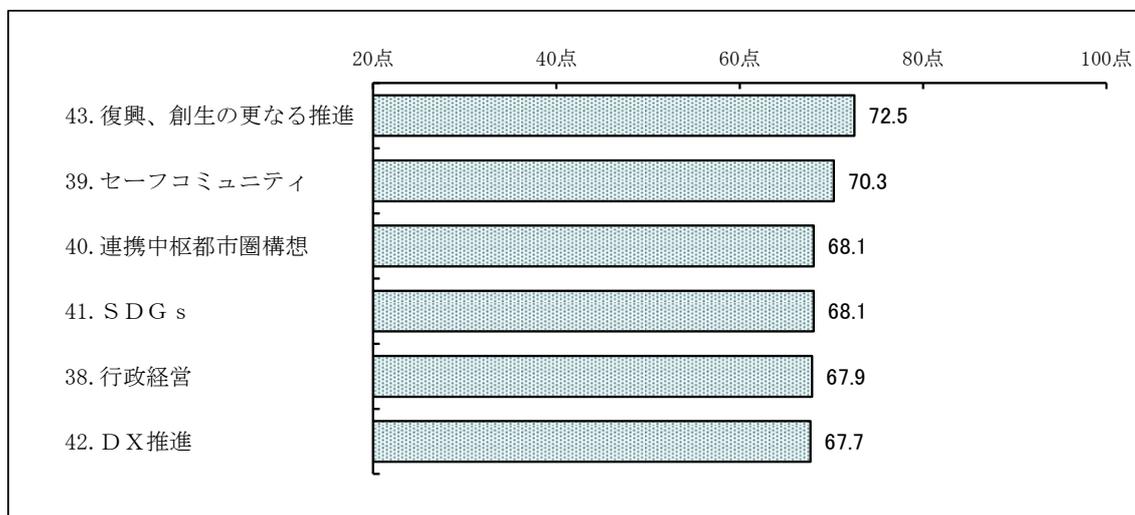


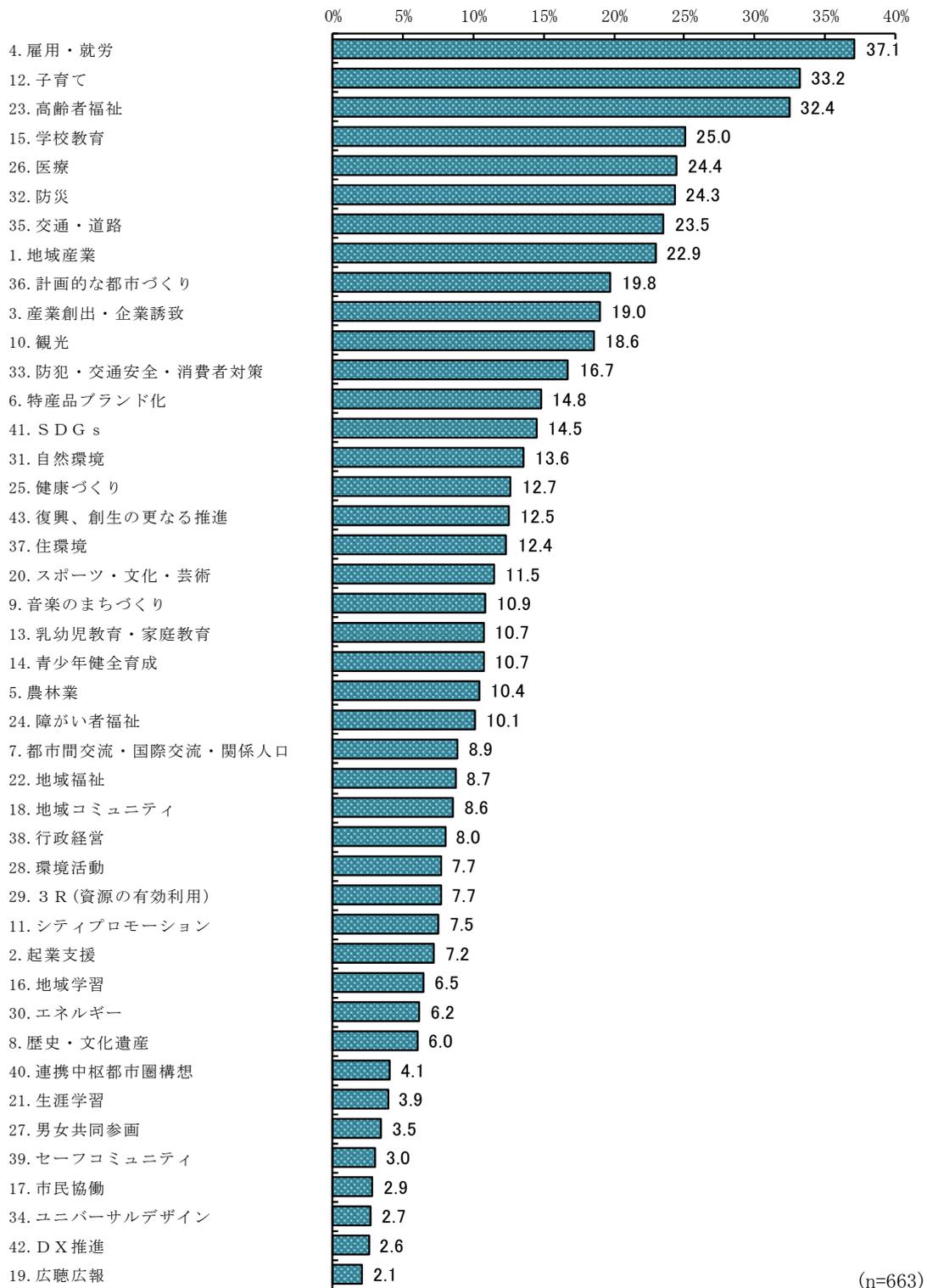
表 3-13 基盤的取組への満足度<性別、年代別平均得点の上位 3 つ>

	男性	女性
1位	復興、創生の更なる推進 (71.4点)	復興、創生の更なる推進 (73.3点)
2位	セーフコミュニティ (70.7点)	セーフコミュニティ (69.5点)
3位	SDGs (68.9点)	DX推進 (68.9点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	SDGs (80.0点)	復興、創生の更なる推進 (80.5点)	復興、創生の更なる推進 (70.7点)	復興、創生の更なる推進 (72.6点)	復興、創生の更なる推進 (70.3点)	復興、創生の更なる推進 (70.3点)	セーフコミュニティ (73.9点)
2位	DX推進 (77.1点)	セーフコミュニティ (75.2点)	セーフコミュニティ (68.1点)	SDGs (68.4点)	セーフコミュニティ (68.4点)	連携中枢都市圏構想 (69.7点)	復興、創生の更なる推進 (73.4点)
3位	行政経営 (76.7点)	SDGs (73.8点) DX推進 (73.8点)	SDGs (65.7点)	DX推進 (67.5点)	連携中枢都市圏構想 (67.8点)	セーフコミュニティ (69.5点)	連携中枢都市圏構想 (71.6点)

(5) 分野別属性別重要度結果 (複数回答)

問 現在、本市が進めているまちづくり (取組み) について、特に重要と思われるものの番号を1~43から5つ選び、その番号に○印をつけてください。



最も重要視されている施策・事業は「雇用・就労」

【全体結果】

『4. 雇用・就労』(37.1%)の割合が最も高くなっています。以下、『12. 子育て』(33.2%)、『23. 高齢者福祉』(32.4%)、『15. 学校教育』(25.0%)、『26. 医療』(24.4%)の順で続いています。

なお、性別、年代別の上位5つを以下に掲載しました(表3-14参照)。

表3-14 これからの取組についての重要度<性別、年代別の上位5つ>

	男性	女性
1位	雇用・就労 (36.9%)	雇用・就労 (38.1%)
2位	子育て (33.4%)	高齢者福祉 (35.9%)
3位	高齢者福祉 (28.3%)	子育て (32.8%)
4位	交通・道路 (25.2%)	学校教育 (29.9%)
5位	地域産業 (23.8%)	医療 (28.8%)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1位	特産品ブランド化 (38.5%)	雇用・就労 (42.9%)	子育て (70.4%)	雇用・就労 (42.2%)	雇用・就労 (44.4%)	雇用・就労 (36.5%)	高齢者福祉 (38.9%)
2位	医療 (38.5%)	観光 (42.9%)	雇用・就労 (38.0%)	子育て (36.7%)	高齢者福祉 (41.1%)	高齢者福祉 (34.5%)	雇用・就労 (27.8%)
3位	SDGs (38.5%)	子育て (40.5%)	学校教育 (32.4%)	学校教育 (35.8%)	防災 (32.3%)	子育て (29.1%)	交通・道路 (22.9%)
4位	学校教育 (30.8%)	交通・道路 (38.1%)	医療 (32.4%)	高齢者福祉 (31.2%)		防災 (25.0%)	
5位	都市間交流・国際交流・関係人口 (23.1%) 観光 (23.1%) 地域学習 (23.1%) スポーツ・文化・芸術 (23.1%) 地域福祉 (23.1%) 障がい者福祉 (23.1%) 男女共同参画 (23.1%) 3R(資源の有効利用) (23.1%) 自然環境 (23.1%) 防犯・交通安全・消費者対策 (23.1%) ユニバーサルデザイン (23.1%)	医療 (28.6%)	観光 (26.8%)	医療 (29.4%)	地域産業 (28.2%) 子育て (28.2%) 医療 (28.2%)	医療 (23.6%) 交通・道路 (23.6%)	地域産業 (21.5%) 学校教育 (21.5%) 復興、創生の更なる推進 (21.5%)